第５次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

ヘラシギ

Calidris pygmaea (Linnaeus, 1758)

守屋年史（バードリサーチ）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会　鳥類分科会

環境省 編

令和８（２０２６）年３月

特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：守屋年史，2026．ヘラシギ．環境省（編）第５次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 80-84．

Citation: Moriya, T., 2026. *Calidris pygmaea* (Linnaeus, 1758). *In*: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 80-84.

チドリ目 Charadriiformes　シギ科 Scolopacidae

ヘラシギ

***Calidris pygmaea* (Linnaeus, 1758)**

カテゴリー判定結果　絶滅危惧ⅠA類（CR）　D				
基準 A:　－	基準 B:　－	基準 C:　－	基準 D:　CR	基準 E:　－

D．成熟個体数が 50 未満であると推定される個体群である。

【推定根拠】

国内で複数個体が観察されることが希であり、また、秋期の幼鳥の観察報告が多い。各地の観察記録を総合すると、年間に国内に飛来する成熟個体は 5 羽前後と推測される。

評価分科会：　鳥類分科会

概要

日本では春秋の渡りの時期に砂浜干潟、河口部、砂浜海岸に飛来して、少し水につかる場所で嘴を水につけて左右に動かしたりし、昆虫、甲殻類、種子などを食べる。日本では春秋の渡りの時期に通過して行くのみであるが、観察数は極端に少ない。近年渡りの時期に利用できる砂浜干潟は減少傾向にあり、砂浜海岸もレジャーによる利用等で安全に利用できる場所は少なくなっている。これによって渡り途中のエネルギー補給に影響が出ていると思われる。

基礎情報

【形態】

全長 14～16 cm。シギの中でも小型の種で、トウネン（*Calidris ruficollis*）と同大。冬羽は頭部から背にかけて灰色であるが、幼鳥は褐色がかる。腹部は白色。夏羽では頭部から胸部にかけて橙色となり、背の羽毛や雨覆羽の縁も赤みをおびる。一番の特徴はヘラ状の嘴で、この点で他種とは区別は容易。

【生活史】

東アジア-オーストラリア地域にのみ生息し、日本では春秋の渡りの時期に砂浜干潟等で観察され、特に秋期の幼鳥の記録が多い。嘴を水中につけて左右に動かしたりし、昆虫、甲殻類、種子などを食べる。

【生息環境】

国内では春秋の渡りの時期に、少数だが全国の砂浜干潟、河口部、砂浜海岸など砂地・砂泥地で記録されることが多い。

生息環境区分：	【陸域_海岸部】田地・畑地，湿地・湿原，河川下流域，河口域，砂浜・礫浜，塩沼地・塩性湿地・河口干潟，潟・汽水湖 【海域（沿岸）_表層】干潟
国土地域区分：	（4）河川・湿地地域，（5）沿岸域

【分布域】

日本は主に春秋の渡りの時期に通過して行くのみであるが、全国で記録がある。沖縄島では越冬の記録もある。繁殖地はチュコト半島南部からカムチャツカ北部沿岸の限られた地域で、インド南東部・スリランカから中国南部、東南アジア地域で越冬する。

現在の生息状況

【分布域の現況】

全国で記録があるが、日本は春秋の渡りの時期に通過して行くのみであるため、分布域の変遷は不明である。本州や沖縄では越冬の記録もある。

【生息地の現況】

沿岸部の砂浜干潟や砂浜海岸などを利用しながら渡っていると思われるが、全国的にシギ・チドリ類が利用できる砂浜、干潟などは減少傾向にある。

【個体数の現況】

現在、IUCN のレッドリストでは、絶滅危惧種（CRITICALLY ENDANGERED）とされている。推定される全世界の総個体数は、360～620 個体、トレンドは減少中である。

日本では春秋の渡りの時期に通過して行くのみであるが、観察数は極端に少ない、複数個体が観察されることは稀になっている。

存続を脅かす要因

日本は春秋の渡りの時期に少数が通過するのみであるが、本種は世界的にも分布が限られる個体数の少ない種であり、沿岸開発や違法狩猟、誤捕獲、天敵による卵の捕食などの影響を受けて、存続が脅かされている。その世界的にも希少な種が、春秋の渡りの時期に日本を利用して移動しているため、移動中の休息場、採餌場は種の存続にとって重要な役割を担っていることになる。しかし、近年渡りの時期に利用できる砂浜干潟は減少傾向にあり、砂浜海岸もレジャーによる利用等で安全に利用できる場所は少なくなっている。これによって渡り途中のエネルギー補給に影響が出ていると考えられる。

要因の区分：	（過去）	河川開発，海岸開発，湿地開発，捕獲・狩猟/園芸採取
	（現在）	河川開発，海岸開発，湿地開発，捕獲・狩猟/園芸採取

特記事項

日本に渡来するガンカモ類やシギ・チドリ類などの渡り性水鳥類が利用する主要な渡来地については、河川湖沼 84 ヶ所のうち 41.7%が保護区域未指定、干潟・湿地 152 ヶ所のうち 66.7%が保護区域未指定であり、干潟・湿地を利用する鳥が多数訪れる場所については保護指定が遅れている現状が指摘されている（三上ら 2012）。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第４次 2020：	ヘラシギ	*Eurynorhynchus pygmeus*	CR
第４次 2019：	ヘラシギ	*Eurynorhynchus pygmeus*	CR
第４次 2018：	ヘラシギ	*Eurynorhynchus pygmeus*	CR
第４次 2017：	ヘラシギ	*Eurynorhynchus pygmeus*	CR
第４次 2015：	ヘラシギ	*Eurynorhynchus pygmeus*	CR
第４次：	ヘラシギ	*Eurynorhynchus pygmeus*	CR
第３次：	ヘラシギ	*Eurynorhynchus pygmeus*	CR
第２次：	ヘラシギ	*Eurynorhynchus pygmeus*	EN
第１次：	ヘラシギ	*Eurynorhynchus pygmeus*	V

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和６年度末時点）

【北海道】絶滅危惧ⅠA 類(Cr),【青森県】最重要希少野生生物(A ランク),【宮城県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN),【秋田県】情報不足(DD),【山形県】絶滅危惧ⅠA 類(CR),【福島県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN),【千葉県】最重要保護生物(A),【東京都（本土部）】絶滅危惧ⅠA 類(CR),【東京都（区部）】絶滅危惧ⅠA 類(CR),【新潟県】絶滅危惧Ⅱ類(VU),【石川県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN),【福井県】県域絶滅危惧Ⅰ類,【静岡県】絶滅危惧ⅠA 類(CR),【愛知県】絶滅危惧ⅠA 類(CR)(通過),【三重県】絶滅危惧ⅠB 類(EN),【兵庫県】B ランク,【岡

山県】絶滅危惧Ⅰ類，【山口県】絶滅危惧ⅠA類(CR)，【徳島県】絶滅危惧ⅠA類(CR)，【福岡県】絶滅危惧ⅠA類(CR)，【佐賀県】絶滅危惧Ⅰ類種，【長崎県】絶滅危惧ⅠA類(CR)，【熊本県】絶滅危惧ⅠA類(CR)，【大分県】情報不足(DD)，【鹿児島県】絶滅危惧Ⅰ類，【沖縄県】絶滅危惧ⅠA類(CR)

保護に係る法令指定状況（令和７年度末時点）

国内希少野生動植物種，鳥獣保護管理法

参考文献

- IUCN 2023. The IUCN Red List of Threatened Species. Version 2022-2. <https://www.iucnredlist.org>
- 環境省自然環境局生物多様性センター，2020．重要生態系監視地域モニタリング推進事業（モニタリングサイト 1000）シギ・チドリ類調査 2004-2017 年度とりまとめ報告書．環境省，富士吉田市．
- 三上かつら・高木憲太郎・神山和夫・守屋年史・植田睦之，2012．渡り性水鳥類の渡来地の保護区域指定の現状．日本鳥学会誌，61(1): 112-123．
- 中村登流・中村雅彦，1995．原色日本鳥類生態図鑑（水鳥編）．保育社，大阪．
- 日本鳥学会，2024．日本鳥類目録改訂第 8 版．日本鳥学会，東京．506pp.
- Green, R. E., E. E. Syroechkovskiy, G. Q. A. Anderson, Qing Chang, S. U. Chowdhury, J. A. Clark, Mohammod Foysal, Yuri Gerasimov, Baz Hughes, Chris Kelly, Elena Lappo, Rebecca Lee, K. K. S. Leung, Jing Li, E. Y. Loktionov, D. S. Melville, James Phillip, P. S. Tomkovic, Ewan Weston, Jenny Weston, Nikolai Yakushev and N. A. Clark, 2021. New estimates of the size and trend of the world population of the Spoon-billed Sandpiper using three independent statistical models. Wader Study 128(1): 22-35.
- Van Gils, J., P. Wiersma, C. J. Sharpe and G. M. Kirwan, 2020. Spoon-billed Sandpiper (*Calidris pygmaea*), version 1. 0. In Birds of the World (J. del Hoyo, A. Elliott, J. Sargatal, D. A. Christie, and E. de Juana, Editors). Cornell Lab of Ornithology, Ithaca, NY, USA. https://doi.org/10.2173/bow.spbsan1.01
- Wetlands International, 2023. “Waterbird Populations Portal”. Retrieved from wpp. wetlands. org on Thu Sep 282023.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Calidris pygmaea has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Calidris pygmaea* is listed as CR under criteria D.

D. Population size estimated to number fewer than 50 mature individuals.

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Beach】Farmland, Wetland, Lower river basin, Estuary, Sandy beach/Pebble beach, Salt marsh/Intertidal mudflat (including

	mangrove wetland), Lagoon/Brackish lake 【Marine area (Coastal area)_Surface water】Intertidal mudflat
Threat types:	River development, Coastal development, Wetland development, Hunting and collecting animals/Gathering plants
Law designation status for conservation	Nationally rare species of wild fauna and flora. Wildlife Protection, Control, and Hunting Management Act.





執筆者:	守屋年史（バードリサーチ）
Author:	Toshifumi Moriya

公表年月：2026 年 3 月